
「海の生き物を守る会」メールマガジン No.26

2008. 10. 16 (木)



Association for Protection of Marine Communities (AMCo)

Homepage : <http://www7b.biglobe.ne.jp/~hiromuk/index.html>

「今日の海の生き物」 カメノテ *Pollicipes mitella*

カメノテは、形からは想像ができないが、れっきとした甲殻類 (エビ・カニの仲間)。暖海



の岩礁地に固着生活をおくるフジツボ目ミョウガイ科に属する。多くのフジツボ類と同じように、雌雄同体であるが、近隣の個体間で交尾をする。フジツボ類と同じように、蔓脚とよばれる付属肢が変化した網状のもので海水中のプランクトンなどを濾して食べる。潮間帯のもっとも上の方に生活し、乾燥にも強い。昔から肝臓の薬として知られ、食用とするところもある。形状からタカノツメと呼ぶところもある。

(山口県上関町長島田ノ浦にて 向井 宏 撮影)

目次 「今月の海の生き物」カメノテ

1. 海の生き物とその生息環境に関するニュース
2. 当会の現在の活動と予定
3. 海の生き物に関する運動・行事・他の団体の情報
4. 海の生き物とその環境に関する出版物の紹介
5. 事務局便り
6. 編集後記
7. 「うみひろも」と「海の生き物を守る会」について

1. 海の生き物とその生息環境に関するニュース

【東北】

●全漁連が「人と海との共生を考える」シンポを開催

岩手県宮古市で藻場や干潟の環境保全と沿岸漁業への影響について話し合う「人と海との共生を考えるシンポジウム」が全国漁業協同組合連合会の主催で開かれた。シンポジウムでは、料理研究家の服部幸應氏が「食育」をテーマに講演し、宮古市と北海道別海町の漁業者がニシンの稚魚放流の取り組みやホッカイベイエビ漁が行われているアマモ場の保全活動を紹介した。「宮古湾の藻場・干潟を考える会」の山根幸伸会長は「手つかずの自然が残る湾奥ではニシンのほかにもマダラやスケソウダラ、マアナゴなど豊富な種類の稚魚が育っている」と報告。「成果はすぐには出ないが、漁業者と一般市民が連携し、長期的に保全活動を続けていくことが必要だ」と強調した。

【北陸】

●エチゼンクラゲ 突然の退場か？

2000年以降、毎年日本海で大量発生して、海の環境の異変を知らせていると考えられていたエチゼンクラゲが、今年は日本海沿岸全体でほとんど見られなくなった。近年10月頃は能登半島沖に大量に見られたが、今年は富山県ではまだ一匹も確認されていない。

これまで、大量のクラゲによる網漁への影響で、漁獲量の減少や品質低下に悩まされていた漁業関係者らも、今年はどうしたことかといぶかりながらも、「久しぶりに安心して漁ができそうだ」と胸をなで下ろしている。

2006年10月末には輪島沖の定置網で約一万匹もの大群が確認されたこともあった。

エチゼンクラゲの急激な減少の理由はまだよくわからないが、今後発生する可能性も残されている。そもそもエチゼンクラゲの急激な増加の原因もまだハッキリしてはいないが、中国黄海での海洋汚染が海の生態系を乱し、植物プランクトン→動物プランクトン→魚と

いう海洋生態系の食物連鎖から、植物プランクトンの大量発生→植物プランクトンの死骸→バクテリア・微生物→クラゲの大量発生という図式で説明されるようになった。そのクラゲが発生しなくなった理由は、黄海の汚染が無くなったからと言うわけではなさそうである。今年の減少は、上述した説明そのものの見直しを要求することになるかもしれない。

【近畿】

●産廃埋め立て地が「野鳥の楽園」に 大阪・堺

日本野鳥の会大阪支部は、大阪府堺市の湾岸部にある 280 ha の産業廃棄物の埋め立て地の野鳥の調査結果を発表した。それによると、絶滅危惧（きぐ）種を含む 100 種以上の野鳥が確認され、このうち 20 種以上は繁殖もしており、大阪支部は「人間が出したゴミでできた負の遺産を、正の遺産に変えるチャンス」として、この埋め立て地を鳥獣保護区として指定するように求めている。大阪府も埋め立て地で植樹などを行い「人や鳥が共生できる森づくり」を進めているという。

この区域はほとんどのエリアが立ち入り禁止となっており、そのために野鳥の営巣や繁殖が進んだとみられる。確認された野鳥のうち 9 種はタカ科のチュウヒなど絶滅危惧種であった。

【中国】

●ジオパーク委 鳥取砂丘らを調査

「地質の世界遺産」と呼ばれる世界ジオパークの国内申請地域を選定する日本ジオパーク委員会が国内初登録を目指す山陰海岸で現地調査を行った。元京都大学総長の尾池和夫委員長をはじめ三人の委員が鳥取砂丘（鳥取市）や浦富海岸（岩美町）を訪れ、日本列島が形成された様子を物語る地質や地元の保全活動などを評価した。

鳥取砂丘周辺では、平井伸治鳥取県知事が調査に同行し「砂丘の景観保全に真剣に向き合っている人たちが地元にはたくさんいる。熱意を理解してほしい」と訴え、登録されれば専門の研究員を配置して地質調査のネットワークを広げていくと約束した。尾池委員長は「砂漠は世界あちこちにあるが、雨や雪が降っている地に広がる砂地というのが世界的に面白い。特色は十分にあるが、それをどう伝えるかが勝負だ」と指摘した。

鳥取県は砂丘に落書きすることを禁じた県条例を制定したばかりである（しかし、現地調査のこの日も砂丘の「馬の背」に落書きがあった）。委員の一人は、この条例をジオパーク選定の評価の一つであると評価した。委員たちは、そのあと、候補となっている玄武洞公園（豊岡市）や郷村断層・かぶと山（京丹後市）などを訪ねた。

世界ジオパークは、地球規模で地質遺産を保全しようという、国連教育科学文化機関（ユネスコ）の支援を受けた取り組み。教育や観光面での活動も重視される。

山陰海岸、長崎の島原半島、四国の室戸岬など国内 5 地域が登録を目指しており、20 日の委員会で 3 地域以内に絞り込む予定。年内に世界ジオパークへ申請し、来年夏に登録地が決定される。

●釣り通し環境学ぶ エコフィッシング教室指導者講習

釣りや調理を楽しみながら但馬の海辺の環境や生物について学ぶ自然体験プログラム「エコフィッシング教室指導者講習会」が兵庫県香美町香住区訓谷の佐津海岸などで開かれ、高校生ら住民 14 人が参加した。エコフィッシング教室は、参加者に釣りを通して海の楽しさを体感してもらうとともに、海の生き物や海辺の環境について学んでもらうプログラム。指導者講習会は、NPO 法人「たじま海の学校」（今井学代表）が企画した。

参加者全員が釣りを行った後、釣った魚をさばくことに挑戦。講師は魚の名前や特徴などを説明し「魚をさばく時には参加者に魚のつくりをじっくり見てもらうことが必要だ」などと助言した。同法人では「シュノーケリングに続いて釣りも自然体験として家族連れなどに人気が出そうだ」と話していた。

●祝島の漁民が「漁民の権利」で原発差し止め訴訟へ

山口県上関町田ノ浦に原発を建設するために、中国電力が海面埋め立ての申請を県に出したことを受けて、山口県知事は今月中にも埋め立てを許可する可能性が高い。原発建設に反対する対岸の祝島の漁業者ら住民が、埋め立てと原発の建設によって漁業をする権利を奪われるとして、今月中にも中国電力と山口県知事を相手取って、埋め立て許可取り消しの仮処分を要求する訴訟に踏み切るようになった。

田ノ浦周辺は、スナメリが泳ぎ、水も砂もきれいで、祝島の漁民の漁業を支えている一級の漁場である。この海域を埋め立て、高温の温排水を日常的に排水する原発の建設は、放射能事故が皆無としても、風評被害を含めて祝島の漁業に決定的な打撃を与えるだろう。漁業と急峻な斜面での厳しい農業で生きてきた祝島の住民にとっては、原発の建設は死を意味する。

●市民団体も環境権で裁判に訴える予定 環境弁護団を結成

祝島住民による埋め立て・原発建設差し止め訴訟とともに、「長島の自然を守る会」（代表：高島美登里さん）などは、田ノ浦周辺の海や山に棲む生き物たちの生存と生き物たちからの恵沢を受ける私たちの権利を訴えて、原告団を結成し、裁判に訴えて埋め立てを止めさせる決意をした。環境法律事務所などの協力を得て弁護団も結成される。

「長島の自然を守る会」では、一人 2 万円の協力金で原告団に参加する人を募集している。また、先月から埋め立てを止めさせるための署名運動も続けており、現在 2 万名以上の反対署名が集まっている。「海の生き物を守る会」も側面から彼らの戦いを支援していきたい。

【沖縄】

●IUCN が辺野古基地撤回も含めてジュゴン保護を勧告

国際自然保護連合（IUCN）はスペインのバルセロナで開かれている総会で、WWF-J や NACS-J などが提出した沖縄のジュゴン保護と米軍普天間飛行場移設計画に関する環境影響評価の日米共同実施を求める勧告案について採決し、賛成多数で勧告案を了承した。勧告案では国際条約に基づくジュゴン保護の覚書への参加呼びかけや、建設中止を意味する言葉が盛り込まれていたため、日本政府が反対の態度を表明。このため協議は長引いていたが、総会の最終日になって採決したもの。日本政府は反対の態度を示した。

勧告案は、ジュゴンが生息するすべての国に対し、ジュゴンへの有害な影響を最小化するため移動性野生動物種保全条約のジュゴン保護に関する覚書への参加を求めているほか、日本が実施しているジュゴン生息地での飛行場建設に関する環境影響評価を米国と共同で行い、建設中止も含めて計画案を作成することを求めている。勧告は強制力を持たないが、日本政府にとってアメリカでのジュゴン訴訟とともに重い足かせとなるだろう。IUCN が日本のジュゴン保護を勧告したのは三度目になる。三度目の正直になるか、仏の顔も三度になるか、ジュゴン保護のために日米両政府が行動を起こすことを求めたい。

●アオサンゴが絶滅危惧種に 国際自然保護連合

日本などの各国政府や環境保護団体でつくる国際自然保護連合（IUCN）がまとめる最新版の絶滅の恐れのある生物リスト（レッドリスト）に、沖縄県の名護市や石垣島で大群落を確認されているアオサンゴが絶滅危惧種として掲載される見通しになったことが2日明らかになった。リストは6日、スペインでの総会で発表される。

名護市の大群落は米軍普天間飛行場の移設が予定されている同市辺野古崎から東に約3キロの地点で、建設で悪影響を受ける可能性が高い。同海域には国の天然記念物のジュゴンが生息していることも分かっており、保護を求める声がさらに強まるのは必至だ。

アオサンゴはインド洋から太平洋にかけて分布し、骨格の内側が青いのが特徴。石垣島の世界最大の大群落が知られていたが、昨年辺野古崎沖の大浦湾でも大群落が見つかり話題を集めた。最近では、地球温暖化に伴う海水温上昇で起きる白化現象や病気で死ぬものが増え、観賞用に採取されるケースも目立つ。

このため、IUCN の専門家グループは7月、世界の700種類以上のサンゴの保全状況をまとめた報告書の中で、アオサンゴを「絶滅の危険が増大している種」に分類した。

●沖縄県サンゴ礁保全推進協議会が発足 会員募集中

総合的なサンゴ礁の保全などを基本理念とした沖縄県サンゴ礁保全推進協議会が発足した。現在、会員を募集している。今年度の申し込みについては、入会費および年会費は無料で募集している。12月13日に第1回総会開催を予定しており、それまでに役員選挙を

予定している。

問い合わせ先：財団法人沖縄県環境科学センター環境科学部

担当：長田智史、山川英治

E-mail: coralreef@okikanka.or.jp Fax: 098-875-5702

沖縄県サンゴ礁保全推進協議会の役員と基本理念は以下の通り。

会長：西平守孝 副会長：中野義勝 理事 19 名

基本理念

1. 総合的なサンゴ礁保全の推進
2. 多様な主体の連携
3. 地域のサンゴ礁保全への支援
4. 意思表明の自由の保障と協議会の中立性の確保

2. 当会の現在の活動と予定

砂浜海岸生物調査をいっしょにやりませんか

海の生き物を守る会・OWS

海の生き物を守る会では、セブン-イレブンみどりの基金の後援で、NPO法人OWSと共同で今年から全国の砂浜海岸生物調査を実施しています。日本の砂浜を生き物のために取り戻そうと計画された調査です。調査は誰にでもできる方法で計画されていますので、少しでも多くの方が、多くの海岸でこの調査に参加していただけるようお願いいたします。

ご協力いただける方は、事務局までお申し出ください。方法と調査報告用紙をお送りいたします。なお、方法と調査用紙は希望者にはメールでもお送りします。当会のホームページ <http://www7b.biglobe.ne.jp/~hiromuk/index.html> にも掲載しています。今月からは、NPO法人「海守」でもこの砂浜海岸生物調査に参加を呼びかけています。

●今年度のジュゴンツアーは、当分見合わせます

毎年12月頃実施してきた当会主催のジュゴン調査ツアーは、今年のフィリピン・ミンダナオにおける政治情勢が緊迫していることなどから、当分実施を見合わせています。実施可能になったと判断した場合には再開しますので、「うみひろも」の案内にご注目ください。

3. 海の生き物に関する運動・行事・他の団体の情報

【関東】

●OWSパラオ・サンゴ礁エコツアー開催

国際サンゴ礁年 2008 特別企画

ダイバーには不動の人気を誇るパラオ。今回のエコツアーは、パラオ在住の倉田洋二 OWS 副会長と OWS ネイチャーガイドがパラオの大自然の魅力を余すことなくガイドするスペシャルツアーです。無人島で過ごす2日間は、非日常的で贅沢な時間を過ごすことができる特別なプログラム。リピーターでも新たなパラオの発見が出来る内容です。

開催日：11月27日～30日 4日間【現地集合／現地解散】

※ツアー日程に合わせて成田を発着する場合、11月26日成田発、12月1日成田到着
参加費：98,000円（現地宿泊費、キャンプ費用、スケジュールに記載されたプログラム参加費・食事・移動費用を含む）

※現地への渡航費は各自手配となります。手配先が不明の場合は事務局まで。

宿泊施設：コロール：VIPホテル（シングルルームを希望の場合は追加料金必要）

応募締め切り：10月26日 ※お申込みはお早めに！

最少催行：6名

お問合せ：OWS 事務局まで。（Tel: 03-5960-3545, E-mail: <mailto:info@ows-npo.org>）

※詳しくは⇒<http://www.ows-npo.org/activity/eco-tour/palau-ecotour.html>

●OWSネイチャーガイドトレーニングコース開催 参加者募集中

このコースは、プロのネイチャーガイドとして、自然観察や自然体験プログラム等を立案・実施するために必要な能力を開発するコースです。フィールドでの研修を中心とした実践的なプログラムで、職業としてのネイチャーガイドを目指す意欲ある方の参加をお待ちしています。

開催日：10月31日（金）～11月3日（月・祝）コアコース 4日間

※3週間のインターンコースは常時開始可能です。

開催場所：OWS 講習室・三浦半島(コアコース実施予定地)

参加費：157,500円（4日間コアコース+3週間インターンコースの全受講費、教材費、傷害保険、税含む）【その他費用】旅費、宿泊費、食費等の実費、OWS 登録料

定員：6名(最少催行人数 2名)

※詳しくはこちらをご覧ください⇒<http://www.ows-npo.org/activity/ntc/outline.html>

●サンゴ礁保全と海洋保護区～ 生物多様性保全を考える ～

第5回 OWS 海のセミナー

開催日：11月29日（土） 14時00分～17時40分

場 所：国立科学博物館 新宿分館 研修研究館 4階大会議室

私たちの暮らしは、さまざまな自然の恵みにささえられています。その自然を守り、未来に繋いでいくには、生命の多様さとそれらをささえる環境の多様さを学び、その価値を知ることから始まります。

今回の海のセミナーでは、国際サンゴ礁年を締めくくり、来るべき2010年の国際生物多様性年に向け、サンゴ礁の多様な自然とその大切さを学び、そうした環境を育む海洋保護区の実現に向けたアプローチを3名の講演者に解説していただきます。

講演 1 14:10~15:10



西平 守孝 名桜大学特任教授

講演:「**サンゴ礁の自然をみつめて**」

サンゴは、サンゴ礁の基礎を作り、多様な生物のすみかとなり、美しい景観を作っています。

多くの生物が共存しているからくりの謎解きが面白くて、サンゴ礁での観察を続けてきました。

ある生物がいることにより、他の生物もそこにすむことができるという「棲み込み連鎖」を通して見えてくる、サンゴ礁生物群集の成り立ちや、保全への取り組みについて、考えてみたいと思います。



写真提供:倉沢栄一

講演 2 15:20~16:20



キャサリン・ミュージック (日本名:水木桂子) 日本水中映像株式会社学術コンサルタント

講演:「**山と海は恋人**」

サンゴは絶滅の危機に瀕しています。熱帯から極地まで、世界中の海は全て危機的な状況にあります。

陸上と海での人間の活動は、海の環境を徹底的に変えてしまいました。私たちの貴重な海洋環境に対する獰猛な変化のスピードを落とし、くい止め、そして元に戻すために、私たちは何ができるのでしょうか。

挑戦し、良い未来を願いましょう！しかし、変化を願う以上に、変えなければならないのです。



写真提供:Heat Wave

講演 3 16:30~17:30



向井 宏 海の生き物を守る会代表 京都大学フィールド科学教育研究センター特任教授

講演:「**海洋保護区をつくろう**

～海の生物多様性保全に向けて～」

昔、魚は無尽蔵でした。それが今では、鯨、マグロはもとより、大衆魚でさえも危うくなり、魚だけでなく多くの海の生き物が人知れず地域的全国的にいなくなってきました。その原因は、人間のなせる業であ



ることが多いのです。

そこで、海の生き物を守るため、人間が手を加えない場所を作ろうというのが、海洋保護区の思想です。

しかし日本では、この思想はまだ多くの同意を得るにいたっていません。それは何故か、どうすれば保護区を作ることができるのか。それらの問題点を紹介して、一緒に考えてみたいと思います。

【関西】

●播磨灘を守る会 第37回総会&学習会

日 時：11月9日（日）13：30

場 所：たつの市御津町新舞子 民宿かもめ

学習会：「ラムサール条約と新舞子海岸」

講 師：小林聡史（釧路公立大） 花輪伸一（WWF・J）

主催・問合せ：播磨灘を守る会（079-322-0224）

●OWS 10周年記念事業 巡回共同写真展

第11回「OWS 5人の写真展 ～未来に残したい海～」

11回目となる「OWS5人の写真展 ～未来に残したい海～」は、住友信託銀行枚方支店で開催します。会場は銀行内展示スペース。スペースの関係により一度に展示する写真パネルは8点程度で、不定期に入れ替えて合計30点を展示します。お近くの方はぜひお立ち寄り下さい。

開催日：2008年10月10日（金）～11月28日（金） 土日祝日休業

開催時間：9：00～15：00

開催場所：住友信託銀行 枚方支店 〒573-0032 大阪府枚方市岡東町13番20号

交 通：京阪「枚方市」駅 南口前

入 場：無料

協 賛：オリンパス株式会社

問合せ：OWS事務局 Tel：03-5960-3545

※詳しくはこちらをご覧ください。⇒<http://www.ows-npo.org/activity/photoex/index.html>

【九州】

●日本バイオロギング研究会第4回シンポジウム in 2008

「環境変動と大型海産魚類の応答：バイオロギングの貢献と課題」

主 催：日本バイオロギング研究会・長崎大学

共 催：長崎水産研究三機関連絡会議

コンビーナー：河邊玲（長大環東シナ海セ） 征矢野清（長大環東シナ海セ）

日 時：2008年11月15日（土）、16日（日）

会場：長崎大学坂本キャンパス・良順会館

＜趣旨＞すでに顕在化しつつある地球環境変化に対して、水圏を高度に利用する人類にとって海洋生物がどのように応答し、新たなる変化を引き起こすのかを精査することは21世紀の科学にとって最も重要な課題の一つである。例えば、北太平洋においては、低気圧の通過や台風の発生と移動など気象現象による湧昇が生物生産を高めているという観測例が報告され始めた。環境変動によって、これら生物生産の高い海域に高次捕食動物が偏って分布する可能性も示唆されている。本シンポジウムでは、環境変動に対して温帯・亜熱帯域を中心として大型魚類の応答行動に関する最近の研究事例を取り上げ、最新のバイオロギング技術を駆使した成果から、更なる研究展開に必要な諸条件の抽出を試み、今後の研究の方向性を探ることを目的とする。

＜プログラム＞ 11月15日（土）

【午前：学生一般講演（9:30-11:30）】

6演題予定（1題20分）

【午後：シンポジウム（13:00-16:00）】

13:00 - 13:05 趣旨説明 河邊玲（長大環東シナ海セ）

13:05 - 13:30 九州に来遊するジンベエザメの衛星追跡 中野秀樹（遠洋水研）

13:30 - 13:55 高度回遊性魚類の分布・回遊に影響を及ぼす水温構造変動
北川貴士（東大院新領域／海洋研）

13:55 - 14:20 水塊構造の年変動がミナミマグロ未成魚の回遊に及ぼす影響
藤岡紘（長大院生産）

14:35 - 15:00 東シナ海北部海域におけるシイラの遊泳行動の季節変化
古川誠志郎（長大院生産）

15:00 - 15:25 国産初のアーカイバルタグの開発 木村幹也（アレック電子）

15:25 - 15:55 大村湾から東シナ海へ：長崎県水域における産卵期ヒラメ成魚の移動推定
安田十也（京大院情報）

15:55 - 16:00 閉会挨拶 中田英昭（長大水）

【ポスターセッション（16:00-17:00）】

【ナイトセッション（18:00-20:30）】 場所：稲佐山観光ホテル（当日受付あり）

4. 海の生き物とその環境に関する出版物の紹介

● 沖縄県環境科学センター「沖縄のサンゴ礁ー沖縄県の重要なサンゴ礁海域ー」
沖縄県文化環境部自然保護課 pp.128 (2006)

● 土田篤「日本の都市は海からつくられた 海辺聖標の考察」 中公新書 1319
pp.227 ¥720 (1996)

5. 事務局便り：

- 講演での講師派遣を希望される方は、事務局へお問い合わせください。沿岸の生物やその環境についての問題、沿岸生態系の構造、保全、再生、地球環境問題、環境教育などに関する講演を行うことができます。
- 本会へのカンパをお寄せください。口座は埼玉りそな銀行指扇支店 3896180。
- 企画案などその他なんでも本会の活動に関することは、事務局あてにお寄せください。
- このメールマガジンは、毎月1日と16日の2回発行の予定ですが、都合によって遅延や中止もあります。配信を希望する方、送りたい方がありましたらアドレスをお知らせください。また、パソコンを使えない方には印刷体でもお届けします。その場合は、郵送料をご負担していただくことがあります。
- このメールマガジンは転載自由です。海の生き物に関心を持っている方に広く読んでいただくために転送をお願いします。ただし写真を別の目的で使用する場合は事前にご連絡ください。海の生き物や海の生き物を守る運動についての情報など、また各地で行われている海の生物の観察会、研修会、その他の行事に関する情報もお寄せください。「うみひろも」のバックナンバーをごらんになりたい方は事務局までご一報ください。
- 本会は自然観察会や講演会を各地で実施しています。各地で開催を希望される方、開催をお手伝いできる方は、ご一報ください。また、各地の団体との共催も行います。ごいっしょに講演会や観察会をしたいと思われる団体からも提案をお受けします。

6. 編集後記

事務局の移転などで多少活動が停滞気味ですが、暑い夏も終わったため、これから活動を再開したいと思っています。砂浜の生物調査も少しずつ報告が集まっています。さらなるご協力をお願いします。また、今年中にもう一度観察会を行い、年度末には東京でシンポジウムと総会を予定していますので、アイデアなどお寄せください（宏）。

7. 「うみひろも」と「海の生き物を守る会」について

この「うみひろも」は「海の生き物を守る会」のメールマガジンです。会員および関心を持っていただけると思われる方にお送りしています。配信が迷惑と思われる方は事務局までご連絡ください。「海の生き物を守る会」の趣旨および組織の概要は会のホームページ <http://www7b.biglobe.ne.jp/~hiromuk/index.html> をごらんください。

会員募集中！

会員は本会の趣旨に賛同できる個人・団体とします。会費は個人 2,000 円／年、団体 20,000

円／年。匿名による参加も可能です。会員は、当会の名前を使って各地で海の生物とその環境を保護・保全する活動を行うことができます。活動は当会の発行するメールマガジンなどを通して広く通知されます。会員は本会の名前で各地の活動のための助成金申請をすることができます。入会希望の方は、事務局 hiromuk@mtf.biglobe.ne.jp（向井）まで、氏名、住所、メールアドレスをお知らせください。

事務局員も募集中！

事務局を手伝っていただける人を探しています。パソコンが使える環境にあれば近くにいなくてもお手伝いいただけます。ただし、無収入ですので海の生き物の保全・保護に関心とボランティア精神のある方。

メールマガジン『うみひろも』第26号 2008年10月16日発行

発行&編集人「海の生き物を守る会」代表 向井 宏

〒606-8244 京都市左京区北白川東平井町23-1 グリーンヒル北白川23

TEL&FAX:075-703-7205; 090-8563-1501

メールアドレス：hiromuk@mtf.biglobe.ne.jp

ホームページURL：<http://www7b.biglobe.ne.jp/~hiromuk/index.html>

銀行口座：埼玉りそな銀行指扇支店3896180

